2009. 1. 30

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.58

日本助産学会ニュースレター

発行所　日本助産学会
〒111-0054
東京都台東区鳥越２－12－2
日本助産師会館３階
電話・FAX　03－3866－3032
e-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp
代表者　堀内成子

巻頭言

統合医療の中での協働活動をめざして

IGL医療専門学校　鍼灸学科　水本綾子

11年ほど前、私は、体操を主題とした内容で、産後の母親の身体的・心理的変化とそれへの対応について書かれた一冊の訳書に出会いました。私は、運動指導員として人々の健康づくりをサポートする仕事をしていたので、産後女性を対象にその内容を取り入れてみました。その中で見えてきたことは、思ったよりもたくさんの女性が産後、妊娠や出産が起因したかもしれない不定愁訴を抱えていること、しかし体操を中心としたセルフケアを続けていくという小さな工夫で、改善されるということでした。そこで、もっと女性の健やかな生活を支えるための方法について学びたいと思い、2007年に広島大学の研究生となり、母性看護学や助産学関連の講義をいくつか受けさせていただきました。

実際に助産師を養成する教育課程を受講して驚いたことは、助産師という職業の幅の広さと奥の深さでした。私の場合は、身体面という一側面からのサポートしかしてきませんでした。しかし助産師は、女性の背景にある妊娠前の経過から新生児の誕生、そして新たな家族ができる過程の心理的・社会的な変化への対応、さらに産むこと産まないことの選択も含めて女性の生き方をも見つめ、サポートする業務だということに気づきました。改めて「自分にできることは何なのだろう」と思ったとき、研究室の先生は、「女性のために、私たちと協働していきましょう」と言葉を下さいました。

私は「産後の女性は、妊娠前の体に戻ることはできないかもしれない。しかし、新しい自分と向き合って、次の出産に備えることや、次の人生のステージに向かってより健康な心身を手に入れることはできるはず。また、出産をしないと決めた人も含めて、いろいろな時期の様々な女性に目を向けていきたい」と思い、その一つのステップとして、2008年春から鍼灸を学んでいます。

その中で、人間を断片的にみるのではなく、取り巻く環境や感情も含めて総合的に体系化されている東洋医学の考え方は、助産学のあり方と通じるものが大きいと感じています。東洋医学の先生はこう言われます。「私たちは患者さんの'病気'を診るのではなく'人間'を見て治療します。当然、東洋医学特有の診察方法である脈診や舌診、腹診などを行って人間の本来持っている自然治癒力を高める治療を行うことが大切です。しかし、それ以前にしっかりと患者さんと向き合い、患者の取り巻く環境や不安な気持ち、希望などを理解し、心を共有すること、患者さんとの確固たる信頼関係を築くことが治療の第一歩だと思います」

統合医療の流れの中で助産師さんともよりよい協働者となれる日があることを望み、学び続けようと思う毎日です。

「NICUに入院した新生児のための母乳育児支援セミナー」開催報告

担当理事　高　田　昌　代

本学会では、日本新生児看護学会と共同で、「ハイリスク新生児に対する直母指導料」を看護系学会等社会保険連合（看保連）の医療技術評価提案書として提出しています。これまでこの指導料を保険で徴収するために、「NICUに入院した新生児のための母乳育児ガイドライン」の作成と技術者養成のためのセミナーの準備を行ってきました。ガイドラインについては、推奨の要点はHPで公開しており、解説編は案の段階まで作成しています。

今年度「NICUに入院した新生児のための母乳育児支援セミナー」を平成20年９月13（土）、14（日）の２日間、広島大学大学院保健学研究科棟で、NICU看護師、新生児集中ケア認定看護師・認定看護師教育課程研修生、助産師68名の参加のもと初めて実施しました。第１日目はプレテストと講義７時間、２日目は講義３時間40分、演習90分とポストテストを行ないました。講義はガイドライン項目に対して行い、演習は用手搾乳法、直母乳の方法、電動搾乳機（シンフォニー）の使用方法を行いました。参加者の評価から、参加者の知識向上に役立つものであり、臨床活用上で重要と認識されました。修了前のポストテストの結果をもとに、全員にセミナー修了証を発行いたしました。

本学会としては、今後も日本新生児看護学会と共同で東京と広島にて２回/年の開催を計画しています。来年度は、対象を看護職に限定せず、東京会場９月５日（土）、６日（日）　広島会場９月12日（土）、13日（日）に開催する予定です。詳細は、後日お知らせいたします。

４年後のネパール現地報告
－自然で安全な助産：女性と赤ちゃんに優しいケア－

国際助産協働委員　神戸市看護大学　早　瀬　麻　子

2008年８月、５回目となるネパールのシッダルタ母と子の病院へ訪れる機会を得た。このシッダルタ母と子の病院は、1998年に特定非営利活動法人AMDA（Association of Medical Doctors of Asia）の協力で建てられたネパールで始めての母子の専門病院であり、助産学会とも縁が深い2004年１月、国際助産協働委員会が企画した研修生招聘事業「自然で安全な助産：女性と赤ちゃんに優しいケア」、同年12月、ネパールで研修評価、翌年の2005年12月には継続事業として、ネパールの首都カトマンズに於いて病院スタッフを対象としたワークショップを行なっている。

今回の訪問で感じたことは、これらの研修がケアに生かされ、４年経った今もなお継続されているということである。分娩台でのお産や陣痛促進剤の使用が減り、自由な姿勢で過ごすように勧めたり、赤ちゃんが降りてきやすい体位をアドバイスし、飲み物を飲ませたり、産婦を一人にしないというような基本的なケアが行なわれていた。日本もしくはネパールで研修を受けた内容は彼女たちの心に響き、その後も引き継がれたのだなあと感じた。多い日には、10人以上の出産があって忙しいに

もかかわらず、いつもにこにこしている産科師長の笑顔が印象的であった。

一方では、自宅出産をして、母子が危険な状態になってから病院に運ばれてきたケースをたくさん目の当たりにし、妊産婦死亡率が非常に高いネパールにおいて、安全な自宅出産へのサポートは急務といえる。これらの原因の１つには、妊婦健診を受けてないことがあげられる。その受診率が上がらないのは、カースト制度が根強く残り、女性の地位が低いネパールにおいて、交通費を払って遠くに妊婦健診に行かせてもらえないということも少なからず影響している。また、識字率が低く基本的なプライマリーヘルスへの知識不足から、妊婦健診の大切さを理解し難いことも大きな問題である。

先日、シッダルタ母と子の病院開院10周年記念シンポジウムを神戸で開催、10年間の歩みとこれからの取り組みをテーマに、医師や助産師、薬剤師、地域開発専門家などさまざまな視点から意見交換がなされた。国際助産協働委員長の毛利多恵子氏もシンポジストとして出席し、「手と心がひとつになったケアを大切に」「ネパールのやり方で取り入れる方が現地の人に受け入れられやすく長続きする」「都市部から離れた村落地区へは、医療を近くまで運んであげるシステムの構築－病院と地域の連携も必要」と今後の課題も踏まえて述べた。母子共に安全な自宅出産ができる環境を整え、異常が発見された場合には早期に病院に搬送できるシステムが整備され、病院で安全な出産ができる。正常分娩と異常分娩の施設の住み分けがきちんとできることが、これからのネパールでは必要といえる。

母子保健の専門家として日本助産学会の協力には期待も大きく、AMDAとの連携をふまえて、「自然で安全な助産：女性と赤ちゃんに優しいケア」を念頭に、研修終了生への支援、および地域と病院との連携にむけての具体的かつ継続的な支援をしていけるような関係でありたい。相手の国を知って自国を知る、相手の文化を知って、自分の国の文化を知る。国際協働という互いに学び合う関係の中で一緒に考え、互いに少しずつ前進できれば良いと思う。

2008年10月、10年間で20,000人目の赤ちゃんがシッダルタ母と子の病院で誕生した。これからも、安全で優しいケアの中で女性が大切にされ、新しい命がはぐくまれるよう私達に出来ることは何なのかを考え続けていきたい。

第23回日本助産学会学術集会のご案内（第２報）

テーマ　「助産の質保証」－信頼と絆－

第23回日本助産学会学術集会長　恵美須　文　枝

第23回日本助産学会学術集会の開催まで、あとわずか４ヶ月となって参りました。

我が国の産科医療の課題は、今年度になってますます深刻な事態に進行してきております。国の方策として進められてきた出産の集中化も、その先に産科医を増やすこと無しには現状の解決が困難であること、その産科医が簡単には増えないことが、いまや誰の目にも明らかになってきています。そのうえ先の見えない少子社会において、女性が安心して子供を産む環境をどうすれば確保できるのでしょうか？　一部には、確かにその考えがあるのですが、この期に及んでさえも、助産師の力を生かそうという明確な社会の声は、不思議なことに高まる気配がありません。

このような時にも、そうでないときにも、如何なる状況にあっても私達助産師自身は、妊産婦や女性に信頼される仕事をしてゆきたいものです。その努力を怠りなく続けて行く存在でありたいと思います。

今回の学術集会では、新しい時代が求める助産専門職の役割を見据え、裁量権の拡大に関する話題やそれを目指す実践力の強化策と、確かな技術を保証する研究の方向性について、多くの皆様の意見交換の場になることを期待しております。教育講演では、弁護士の高岡香先生に助産の仕事の原点を再確認するご講演をお願いし、岡井崇先生には、広く一般の方々にも理解して頂きたい産科医療の特性についての公開講演をお願いしております。さらに日野原先生には、助産師の夢を現実化する内容を語っていただき、ジャズシンガーの綾戸智絵さんには、時を越えた女性の生き方をお話しいただきます。また、学会の軸となるシンポジウムは、助産師の裁量権について考える機会を持ちたいと思っております。そして、一層の強化を図るべき医療連携の話題の企画もいたしました。そして、これらの内容を参加者一人一人に具現化していただくための研究のあり方や、実践技術に関するワークショップを多数準備したつもりです。皆様の研究と実践をご報告いただく一般演題は、これまで以上の153題を応募いただき、口演とポスター会場のにぎわいを楽しみにしております。また、企業の皆様のご協力のお陰で、実践現場の方々にも役立つ新しい知識や技術のご紹介として、企業セミナー及びランチョンセミナーをご提供いただきます。また、今年の新しい試みのハローワーク コーナーも開設いたします。会場アクセスも比較的便利で、コンパクトな会場ながら、多彩なプログラムで有意義な２日間をお過ごしいただけるように、企画委員一同、努力いたしております。当日は、多数の皆様のお越しをお待ち申し上げます。

平成20年11月28日

第23回日本助産学会総会開催のお知らせ

会員各位

第23回日本助産学会総会を下記のように開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席くださいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会　理事長　堀　内　成　子

記

1．日時：平成21年３月21日（土）　12：00～13：00
2．会場：タワーホール船堀　大ホール（第１会場）
3．プログラム
　1）平成20年度活動報告・収支決算報告審議
　2）平成21年度事業計画案・収支予算案審議
　3）第25回学術集会会長の承認

＊　総会要綱は、当日受付にて受け取り、総会に臨んでください。
＊　学会本部コーナーにて、会費（平成21年度及び未納年度）の受付、入会案内の配布、学会誌バックナンバーの販売をします。ご利用ください。

◇◇

第23回日本助産学会評議員会のお知らせ

評議員各位

第23回日本助産学会評議員会を下記のように開催いたします。多事多端の時期ではございますが、ご出席のため万障お繰り合わせくださいますよう、ご案内申し上げます。

日本助産学会　理事長　堀　内　成　子

記

1．日時：平成21年3月20日（金）18：30～19：30
2．会場：聖路加看護大学６階601号室
3．プログラム
　1）平成20年度活動報告・収支決算報告審議
　2）平成21年度事業計画案・収支予算案審議
　3）第25回学術集会会長の選出

平成20年度日本助産学会　表彰受賞者　　表彰関連選考委員会

日本助産学会功労賞：浅生慶子氏（西南女学院大学　助産別科教授）
日本助産学会学術賞：辻　恵子氏（聖路加看護大学　看護実践開発研究センター博士研究員）
日本助産学会奨励賞：中根直子氏（日本赤十字社医療センター　助産師長）

「助産師のエネルギー、力強さ、責任感に感動させられました！」：ICM総会における講演者
ーわくわくした開会式から感動的な閉会式まで、心を動かされた第28回総会の力強い基調講演のプログラムの中からー

(International Midwifery Volume 21-Number 2 , June 2008 より)

1.「助産師として熟練すればするほど、より大きな政治的意志となる」

このシンプルなメッセージは、Dr. Aparjita Gogoiの言葉です。彼女は「白いリボン基金（WRA）とインドの助産師からご挨拶申し上げます」と、話し始めました。彼女は、自国インドで行われている safe motherhood プロジェクトにとって、主な障害となるもの、すなわち、貧困、交通手段の不足、脆弱な健康システムをリストアップし、同時にまた、WRAによって行われ、成功した活動にも焦点を当てました。それは、全ての段階において妊産婦死亡の意識を高め、政治的な惰性に取り組むことでした。WRAはインドにおける強力な運動と同様に、タンザニア、ブルキナファソ、インドネシアを含む他の場所においても、画期的な成功を成し遂げました。彼女の言葉によって、聴衆の間では、助産師と伝統的産婆との関係に関する問題や、全ての段階において原因となる男性を巻き込むことの必要性、人的資源を機械に転換することの危険性、そしてHIVの流行を防ぐために必要とされる一貫した努力について等の議論が活発に行われました。ICMの理事の一員であるKaren Guillilandは、評議委員会は伝統的産婆と積極的に連携する方針に向かっていると、最近の活動について説明を行い、シニア助産アドバイザーであるNester Mayoは、ICMの活動は、助産師の連携を強めたり、HIV陽性の女性に対するケアをトレーニングするような活動であるということを聴衆に思い起こさせました。

2.「人間らしい出産の動きは、次第に速度を増してきています」

1600万人の人口を抱えるリオデジャネイロで、唯一自宅出産を行っているHelosia Lessa は、助産師であり、看護師でもあり、また人類学者でもあります。彼女は、ブラジル国内での出産について、相違点と比較を話しました。都会のプライベート病院では、帝王切開率は98%前後である一方、アマゾン流域には、健康センターに行くために、船で二日、飛行機で6時間もかかる地域があります。「人間らしい」出産の動きは、歩調を早めています。彼女は、自宅出産を経験した女性と妊婦さんと一緒に仕事をしており、「人間らしい」出産という言葉を広げています。今では、ブラジルのより多くの女性が彼女たちの仲間になることができますし、いくつかの地域では、会陰切開のような医療介入率が下がってきています。「科学技術の適切な使用」という会議のテーマに言及した彼女は、出産のケアについて、特に水やボールを用いる出産技術を奨めています、と話しました。

3.「あなたの努力を途上国に向けなさい」

Eugene Declerqは、ボストン大学の公衆衛生学の教授ですが、自分の地位を謙遜して、自身を「データ分析者」と紹介しました。彼は、「二人の王妃様や優れた助産師の後なので、少し気後れしている」といって登壇しました。彼は、高い帝王切開率の危険性について話しましたが、なるべく重苦しい雰囲気にならないように配慮していました。その安全神話にも関わらず、高い帝王切開率は深刻な健康問題であり、貧しい国では大きな問題となっています。それに、帝王切開率が高くなったのは、女性の要求に応じたためであるという証拠はほとんどありません。また、これは、助産師に関係する問題でもあると警鐘を鳴らしました。特に彼は、貧しい国から少し余裕がみられるような国に移行した国で危険な状況があるので、こういった国で医療介入を減らすための努力に焦点が当てられるべきだと、強調しました。

4.「あなたの持っているものを尊重して、背の高いケシを育てましょう」

スコットランドの助産師であるCathy Warwickは、英国における、ロンドンでの女性に対するサービスを提供するリーダーとしての自分の仕事について述べ、いかなる場所でも助産の原理

原則を貫き守ることがサービスを行う上で重要であることを明らかにしました。彼女は、そのシステムを、女性と助産師の双方にとって融通がきいて、ダイナミックで、効果的であるように維持しています。助産師は、自分にあわせた勤務時間で仕事をしていますが、ハイリスク、ローリスクを問わず、違ったサービスエリアでも女性の援助者となるような経験を勧められます。彼女は、女性が選択する自宅出産や出産施設において、熟練した臨床家が十分そろっていることを保証しています。助産師が自信を持っていると感じることが、女性が母親になる際に自信を持つことへの助けとなります。彼女が強調していたことは、女性のケアをする助産師にもケアが求められているということです。そのためには助産師たちがお互いに尊敬しあい、お互いの努力を認め合うことが必要であり、そして、「背の高いケシを育てましょう」と勧めていました。

（訳注：背の高いケシ（tall poppy）は「出る杭は打たれる」の「出る杭」に当たる言葉だそうです。）

文責：国際委員会　山本令子

◇◇

国際助産協働セミナーのお知らせ

第23回日本助産学会学術集会プレコングレスにて開催します。
国際協力に関心のある方、すでに協力経験のある方、これからしてみたいと思われる方へ
日時：2009年３月20日（金・祝日）14：00－16：30
会場：タワーホール船堀（研修室）（〒134－0091　東京都江戸川区船堀４－１－１）

国際助産協働セミナー「国際協力の魅力を語る」

14：00－15：00　講演　「国際協力の魅力」
　　仲佐　保氏　国立国際医療センター国際医療協力局派遣協力課長
15：00－16：30　ワークショップ　「聴こう・語ろう・私と国際協力」
　　国際協力経験助産師たち
申し込み方法：当日受付のみ　定員80名まで
参加費：1000円　　（当日研修室前にて）

＊＊＊ICM募金のお願い＊＊＊

本学会では下記の募金を受付けています。会員の皆様のご協力をお待ちしています。

＊ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ（国際基金）の募金について
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口2,000円です。

振替口座番号：００１９０－８－７１０９３１
加　入　者　名：日本助産学会国際基金

＊セーフマザーフッド基金の募金について
世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口1,000円です。

振替口座番号：００２４０－８－６８１８
加　入　者　名：日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

第34回全国助産師教育協議会研修プログラム

メインテーマ　Advanced Midwifeへの道：心・知・技
日時：平成21年２月12日（木）・13日（金）
場所：京都大学百周年時計台記念館大ホール

2月12日（木）　1日目(10：00 ～ 17：30)

・会長講演　「わが国における助産師教育はどうあるべきか」
　我部山　キヨ子　（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授）
・助産師に必要な新生児心肺蘇生法　(Neonatal Resuscitation Program)
　内田　美恵子（長野県立こども病院副看護部長）
・教育講演　おさえておくべき研究のノウハウ
　量的研究　「論文になる疫学研究のツボ教えます」
　佐々木　敏（東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻社会予防疫学分野教授）
　質的研究　「女性の心と向き合う研究」
　谷口　初美（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻准教授）
・シンポジウム「周産期医療の危機に助産師はどう対応すべきか」

2月13日（金）　2日目(9：30 ～ 15：00)

・教育講演　「安心、安全、快適なお産：Family-Centered Birthの実現をめざして」
　畑山　博（足立病院院長）
・ワークショップ　豊かな助産師教育への取り組み：助産師の技能習得におけるキャリアーラダー
・特別講演　「人間はなぜ子育てに悩むのか」
　正高　信男（京都大学霊長類研究所認知学習分野教授）

当日申し込み参加費
　会員　13,000 円　非会員　14,000 円
　学生　 3,500 円　H21年１月17日以降の参加費

会場：京都市左京区吉田本町
TEL：075-753-2285
FAX：075-753-2107

問合せ先
第34回全国助産師教育協議会研修会事務局（担当：谷口）
住所：〒606-8507　京都市左京区聖護院川原町53
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻家族健康看護学（母性看護・助産学）
E-mail: 34e-midwife@hs.med.kyoto-u.ac.jp　TEL&FAX: 075-751-3925

学会運営および事業推進組織表　　任期2008年４月１日～2011年３月31日

＊追加修正がありましたので下記のようにお知らせいたします。

担当・委員会	事業・業務内容	担当理事○委員長	庶務および会計幹事・各委員の氏名(所属)
総　括		堀内　成子	
庶　務 健やか親子21	会議準備、事務所・受信文書管理 健やか親子21関連	砥石　和子	山本　智美（聖母病院）
会則・渉外	会則等の整備、改正案作成 外部との連絡交渉・組織強化		
会　計	収支・資産管理、会計執行・予算案立案	高田　昌代	藤井ひろみ（神戸市看護大学）
広　報	ニュースレター発行 「国際助産師の日」ポスター	横尾　京子	倉光　広子（広島大学大学院保健学研究科） 中込さと子（広島大学大学院保健学研究科）
編　集	学会誌発行	島田　啓子	安達久美子（首都大学東京健康福祉学部） 有森　直子（聖路加看護大学） 木村　千里（日本赤十字看護大学） 島田真理恵（聖母大学） 春名めぐみ（東京大学） 谷津　裕子（日本赤十字看護大学）
表彰関連選考		○平澤美恵子 島田　啓子 松岡　恵 毛利多恵子	北川眞理子（名古屋市立大学看護学部） 高橋　弘子（愛知県立看護大学）
国　際	ＩＣＭと連携、学会誌・ニュースレターを通じ国際情報の提供、その他国際関連事項	加納　尚美	石川　紀子（愛育病院） 大石　時子（天使大学大学院助産研究科） 小黒　道子（聖路加看護大学） 山本　令子（れいこ助産所）
国際助産協働		毛利多恵子	五味　麻美（慶応義塾大学） 嶋澤　恭子（神戸市看護大学） 橋本麻由美（国立国際医療センター） 早瀬　麻子（神戸市看護大学）
学術会議	日本学術会議関連事項 学術講演会開催	○近藤　潤子 堀内　成子	
学術振興	研究の委託、ワークショップの開催	江藤　宏美	浅井　宏美（首都大学東京健康福祉学部） 片岡弥恵子（聖路加看護大学） 田所由利子（慶応義塾大学看護医療学部） 八重ゆかり（東京大学）
ガイドライン	助産ガイドラインの作成	○江藤　宏美 堀内　成子	
業務検討		○松岡　恵 砥石　和子 平澤美恵子 福井トシ子	神谷　整子（みずき助産院） 窪田　裕子（渋川産婦人科医院） 福島　恭子（愛育病院） 村上　睦子（日本赤十字看護大学）
スキルアップ研修		○安藤　広子 恵美須文枝 高田　昌代	粟野　雅代（杉浦クリニック） 岡永真由美（広島大学大学院保健学研究科博士後期課程） 木下　千鶴（杏林大学医学部付属病院） 斉藤有希江（杏林大学医学部付属病院） 谷口　千絵（日本赤十字看護大学）
看護系学会等社会保険連合会		○松岡　恵 高田　昌代 福井トシ子	
看護系学会協議会	総会・シンポジウム		
助産師団体連絡会	年２回（９・３月）会議開催		
監　事	会計・資産管理	青木　康子 竹内美恵子	
学術集会	第23回学術集会長　恵美須文枝（2008.4～2009.3）東京 第24回学術集会長　加納　尚美（2009.4～2010.3）茨城		

事務局からのお知らせ

次年度（平成21年度）会費（10,000円）納入について

日本助産学会は皆様の会費により運営しています。円滑な事業推進のため、会費の納入を3月末までの年度前払いでお願いいたします。会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますので、お早目の納入にご協力お願い申し上げます。

口座引き落としで会費納入される方で口座変更（姓変更（名義人名変更）・口座番号変更・取引金融機関変更等）・退会希望がある場合は、再登録あるいは現登録データ削除の必要がありますので必ず1月末までにご連絡下さい。また、資金不足で会費が引き落とせないケースがありますので事前の口座残高のご確認をお願いします。

郵便振込での会費納入される方は、3月末までになるべくお早めにお振込みをお願いします。
学会誌投稿（共同研究者含）、学術集会演題応募（共同研究者含）、研究助成応募（研究代表者）等は、会員であり該当年度の会費納入者であることが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上お申し込み下さい。

会費納入に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届および退会届について

住所・所属等の変更があった場合はその都度必ずお早めにお知らせ下さい。変更後の連絡がないと、当学会からの緒情報をお届けすることができませんので、学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報下さい。

変更・退会届の書式は問いませんが、はがき・FAX（03-3866-3032）・E-mail（jam1987@ninus.ocn.ne.jp）等に明記してお知らせください。日本助産学会ホームページ（http://square.umin.ac.jp/jam/）から「変更・退会届」をダウンロードできますのでご利用下さい。

＊退会についてのご注意
次年度（平成21年度）から退会希望の方は、必ず１月末までに退会をお知らせ下さい。退会連絡がない限り会員継続となりますので年会費をお納めいただくことになります。
会費納入後に退会を希望された場合の会費については、[会則　第７条（三）納入された会費はいかなることがあっても返還しない]とありますようにお返しできません。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意下さい。十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

12月上旬にお送りした「次年度会費納入のお知らせ・登録状況の知らせ」の内容確認をお願いします。

学会誌バックナンバー無料化と書籍販売のお知らせ

＊日本助産学会誌バックナンバー第１～16巻を無料、第17～20巻を有料（１部2,500円）で配布しています。
＊「日本助産学会委託研究・学術奨励金助成研究報告書（第３号）」　１部500円
＊「母子に優しいケアを実現するために－口演集－」　１部100円
＊講演会「女性とともにつくるお産と政策」ニュージーランド助産システム　１部1,000円

それぞれ送料分は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、日本助産学会ホームページ（http://square.umin.ac.jp/jam/）から申込書をダウンロードしてFAX（03-3866-3032）か、E-mail（jam1987@ninus.ocn.ne.jp）に添付送信してください。

《連絡先》 日本助産学会事務局　〒111-0054　東京都台東区鳥越２-12-２　日本助産師会館３階
Tel＆Fax：03-3866-3032　E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp　http://square.umin.ac.jp/jam

円滑な事業推進にご協力下さいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。